

推薦の言葉

本書は、これまでにないほど取っ付きやすい胸部単純X線写真の“ものがたり”です。「胸部単純X線写真ってどうやって見るの?」という人から、「どのように教えたらいいの?」という人にまでもぴったりの入門書です。

内容は、病名を当てるためではなく、“異常所見を見逃さず見つけ出す”ことを主眼としており、極めて実践的です。胸部写真の教科書が数多く出版され続けているのは、この“異常所見を見逃さず見つけ出す”方法の習得が難しいためでしょう。本書は、とてもわかりやすい記述で、それを可能にしてくれます。解説方法は大変ユニークですが、妙な色や癖が付かず、次のステップへとつなげてくれます。

中島幹男先生とは、彼が医学部5年生のときに出会いました。好奇心旺盛な方でしたが、画像診断の面白さにもはまられたようで、読影実習・放射線科カンファレンス、院外の画像診断研究会など積極的に参加されていました。卒業する頃には、彼の画像（だけでなく臨床全般）に対する類まれなるセンスで、放射線科研修医を軽く越える画像診断能力を開花されました。画像診断医になってくれたら嬉しいなとは思っていたのですが、彼の全方位への好奇心から取まらなかつたようです。その後、一般内科医、呼吸器内科医を経て救急医・集中治療医になられ、現在も多方面でご活躍中です。

本書は、特定の科からの観点で書かれたものではない、ということが中島先生のご経歴からもわかっていただけたと思います。実際、いろいろな科のいいところ取りをして作り上げられた、胸部写真読影入門書となっています。妙な方向付けやマニアックさは皆無で、短時間で対応しなければならない救急診療まで網羅した臨床に直結する内容です。わかりやすいシェーマや注釈付き画像がたくさん掲載され、章の配列や解説も体系立っています。そのため、どのような読者にとっても入りやすいことでしょう。私も、閑古鳥、シルエットサインの説明、主訴をもとに読む、などなど、へえーっと思いつつながら拝読させていただきました。

画像診断に関して全く白紙の人にも、胸部単純X線写真の読影手順を習得することができるようになる本としてお勧めしたいと思います。